

# 小学校・中学校の学習指導要領改訂案について

株式会社 学書

2017/02/16

## ■次期改訂は、「社会に開かれた教育課程」を重視

2017年2月14日に小・中学校の学習指導要領改訂案が公表されました。総則では、学校と社会の連携・協働の実現を図る「社会に開かれた教育課程」を実現するための考え方が明記されています。告示前の段階ではありますが、大まかなポイントについてまとめております。

新指導要領実施に向けた全体の流れ	教科書の動き・その他関連情報
2017年(H29) <b>&lt;学習指導要領改訂&gt;</b> ⇒教科書会社が新(指)に基づく教科書を作成	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     随時発表される報道発表などによりますので、実際とは異なる可能性がございます。あらかじめご了承ください。                 </div>
2018年(H30) 教科書検定 ※2018=小学, 2019=中学, 2020=高校	
2019年(H31) 教育委員会が教科書採択・供給 ※2019=小学, 2020=中学, 2021=高校	高校 2017年度版教科書を使用しながら一部先行実施=移行措置 高校 基礎学力テスト開始 (現中2・3生対象)
2020年(H32) <b>新学習指導要領実施開始</b> ※2020=小学, 2021=中学, 2022=高校	高校 学力評価テスト開始 (現中2生対象 ※センター試験廃止) (小学3・4年『外国語活動』、小学5・6年『英語』の教科化スタート)

## ■小学校・中学校 次期学習指導要領改訂 教科ごとの主なポイント

### 外国語活動・外国語科(英語) 「読む・書く・聞く・話す(やりとり/発表)」の4技能別の目標を設定

- 英語に慣れ親しみ、「聞く・話す」中心とした『外国語活動』を小3、4年で、そこに「読む・書く」を加えた正式教科『外国語(英語)』を小5・6年で履修する。各学年年間35単位時間ずつ増やす。
- 中学校では、原則授業を外国語(英語)で行う。互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う、対話的な言語活動を重視。
- 扱う語彙数は小3～6で600～700語程度、中学校では現行の1200語程度から1600～1800語程度に増やす。

### 算数・数学 数学的活動・統計的な内容の充実

- 現行は中1で扱う「代表値(平均値・最頻値・中央値)」を小6へ移行。点で分布の様子を視覚的に捉えられるグラフ「ドットプロット」を追加。
- 現行は高校で扱う「四分位範囲」「箱ひげ図」を中2へ移行。
- 小4で数量の関係同士を比較する材料として、簡単な割合を用いた比較の仕方を新たに扱う。
- 中2の図形学習で「反例」を用語として新設。事柄が正しくないのを示す方法として扱う。

### 国語 語感を磨き語彙を豊かにする指導/「考えの形成 or 深化」の領域項目を位置づけ

- 都道府県名に使用する全漢字を小4までに学習。  
⇒これにより、学年配当の移行と、学ぶ漢字数の増加(20字)が発生。小学校で学ぶ総漢字数は1026字に。  
(例:「富」(小5)、「城」(小6)らが全て小4に。「潟」の小4追加)
- 引用の仕方や出典の示し方、情報の信頼性の確かめ方など、情報の扱い方に関する事項の新設。

### 理科 科学的に探究する学習活動の充実/日常生活や社会との関連を重視

- 現行は小5・6で学習する自然災害に関する内容を小4から取り扱う。
  - 現行は中3で学習する自然災害に関する内容を中1・2でも取り扱う。
- } ⇒東日本大震災を意識した内容
- 放射能に関しては中2でも取り扱う。

## **社会** 主権者教育・防災教育・海洋、国土教育の改善・充実

○選挙権年齢が高校生を含む「18歳以上に引き下げられた影響から、主権者教育の充実をはかる。

(例：小3で市町村の仕事や税金の役割などを学ぶ 等)

○竹島・尖閣諸島を「我が国固有の領土」として初めて明記する等、海洋、国土教育の充実をはかる。

○歴史研究の進展に対応した表記の変更。

(例：「鎖国」→「幕府の対外政策」、「日華事変」→「日中戦争」、  
「聖徳太子」→小6で「聖徳太子(厩戸王)」、中学で「厩戸王(聖徳太子)」)

---

## **総合的な学習の時間** 探究的な学習活動にプログラミング教育

○小学校ではプログラミング教育が必修化。

⇒総合的な学習の時間、算数小5「正多角形の作図」、理科小6「電気の性質や働きを利用した道具」などで必ず1回はプログラミングを体験し、論理的思考力を身につける。

○中学では、技術・家庭の技術分野でプログラミングを扱う。

---

## **その他** 東京オリンピック・パラリンピック／和食や和楽器など日本の伝統文化

○小学校・中学校ともに家庭科で和食の基本となる「だし」を取り上げるように明記。

○さらに、和服や和楽器など、日本の伝統と文化に関する教育を強化。

○小学校体育・中学校保健体育で、オリンピック・パラリンピックを意識した、スポーツの意義・価値などに触れるよう明記。  
また、陸上競技でリレーのバトン受け渡しについて触れている。